

(1)国語科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業をはじめとして日常生活の様々な場面(講話、話し合い、会話、作文など)において、自分自身の言語生活を振り返る姿勢や言語表現を豊かにしようとする意欲がうかがえる。 朝読書では、それぞれに目的意識をもって集中して取り組んでいる。 漢字能力検定受検への積極的な姿勢が見られる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに聞き取りテストやスピーチ、暗唱などの取り組みを実施、評価方法の工夫を行っている。 工夫したノート整理を心がける生徒が少しずつ見られるようになってきたが、聞き取る力(聞く力・書く力)の向上に結びつけるためにも、粘り強い指導を継続する必要がある。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章の表現力向上を目指した課題作文や学習シート、論述問題に積極的に取り組んでいるが、文法的に整った文章が組み立てられるような指導は継続していく。 推敲の重要性について再認識させるとともに、課題作文での実践をさらに継続する必要がある。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 授業における発問や学習シートなど、課題設定の工夫を今後も継続していく必要がある。 語句・語彙などの知識・理解との関連を明らかにした上で、辞書や副教材の文章を活用した「読解」指導を継続している。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定受検奨励を通じて、漢字力向上を図っている。また、小テストなどで定着を図っている。 文法や語句の理解を深める学習には、さらなる教材の工夫や補習態勢の充実が必要である。 書写の課題や漢字学習の課題、作文指導を通して、文字を正しく丁寧に書くよう意識させてきたが、さらに継続していきたい。

(2)国語科の今回の学習効果測定等における分析(内容別・観点別)

内容項目	分析
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は目標値を上回る結果であるが、1年生は若干下回る結果となった。 相手の話の意図を考えながら聞くこと、自分の意図が伝わるよう、工夫し考えながら話を組み立てられるように授業の中で機会を増やしていく必要がある。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 1・2年生は自分の立場を明確にして書くこと、3年生は伝えたい事柄が効果的に伝わるように工夫して書くことの正答率が高かった。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 1・3年生は目標値を上回る結果であるが、2年生は目標値をわずかながら下回る結果であった。 文章の構成や展開を正確にとらえる問題に課題が残る。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値をわずかに上回る結果となった。 文法・語句に関する知識の正答率が高かった。

観点	分析
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生は目標値を上回る結果であるが、1年生はわずかに下回る結果となった。 特に、話の内容を正確に聞き取る力が弱いと思われる。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 特に、1・2年生は自分の立場を明確に書く問題、3年生は伝えたい事柄が効果的に伝わるように工夫して書く問題について、目標値を上回っている。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 1・3年生は目標値を上回る結果であるが、2年生は目標値をわずかながら下回る結果であった。 2年生の説明文と物語文の内容を読み取る問題で、目標値を大きく下回っている。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 2年生の「漢字を読む」問題で、目標値を大きく下回っていた問題があった。当該問題は、他の問題の言葉よりも、中学生が普段の学校生活や家庭生活の中で、聞いたり使ったりすることが少ないことが原因であると考えられる。

(3)国語科の今回の学習効果測定等における課題

<ul style="list-style-type: none"> 全学年でどの観点でも目標値を上回る結果が多かった。この状態を維持していきたい。 「聞き取る力」の弱さは、国語にとどまるものではないので、あらゆる場面で集中力・想像力を高める訓練を行う必要がある。 1年生は話の内容を正確に聞き取る、2年生は文法・語句に関する知識に課題があるため、特に注意して指導する必要がある。 いろいろなジャンルの文章に取り組むことによって、どんなものにも対応できる『読む力』『書く力』を養わなければいけない。

(4)国語科の具体的授業改善策

観点	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きや語彙を豊かにする学習を繰り返し行い、文章を正確に読み取る力や自分の意見を的確に表現する力を伸ばしていく。 生徒個人が、それぞれに目的意識をもって取り組むことのできる「朝読書」を充実させる。 日本漢字能力検定の受検奨励。 図書館(図書コーナー)の活用を充実させる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> テーマを定め、グループや学級の中など、いくつか形態を設定し、朗読したり発表したりする機会を設け、指導していく。 ノート整理のしかた(聞き取った内容をメモする欄の設定など)について指導する。 スピーチや聞き取りテスト、話し合い活動の実施。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 文章を推敲することの重要性について再確認するとともに、課題作文などへの取り組みの中で実践する。 論理的な展開のある文章表現力の向上を目指し、課題作文や学習シート、テストなどの論述問題への取り組みの中で、文と文のつながりや段落の構成などについて意識しながら書く指導を行う。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 授業における発問や学習シートなどの課題設定の工夫。(論理的な展開を的確につかんだり、登場人物の心情を読みとったりする方法や手段について実践的に学べるものなど) 文学的表現・説明的文章ともに必要に応じて、生徒の関心をひくような教科書以外の文章を適宜用意し使用する。古典の学習においては、内容理解の上にとって、暗唱の指導を積極的に行う。 語句・語彙などについての知識・理解との関連を明らかにした上で、辞書や副教材の文章を活用した「読解」指導を充実させる。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 日本漢字能力検定などの受検奨励を通じての漢字力の向上。 定期的な漢字学習課題への取り組みとその成果を確認するための小テストなどの実施回数を増やす。 語句・語彙など文法的な事項についての理解に結びつく課題学習。(副教材や学習プリントのまとめ、辞書を使用する授業など)。 文字を正しく丁寧に整えて書こうとする態度とともに、日常生活言語を大切にす姿勢をしっかりと身に付けさせる。

学年	具体的な授業改善策
1学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を「読む」問題が出来なかった生徒が多かったため、漢字の課題や小テストを実施し、基礎・基本的な知識を身につけさせる。 「話すこと・聞くこと」の領域について、目標値をやや下回っていた。様々な場面で集中力を養っていくとともに、授業でも話す・聞く力を身につけさせる指導を重心的に行っていく。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を「読む、書く」の項目では特定の漢字ができていない生徒が多かったので、毎時間漢字練習の時間を設け力を伸ばす。また、幅広い漢字の能力を身に付けるために教科書だけではなく他の教材も使って指導し、定期的に漢字テストを実施 「読む」項目については、漢字の学習も含め語彙力を高めるとともに、指示語や接続詞の使い方にも注意をし、ワークブック・ワークシート等も活用し読解力を高める。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」の項目では文章の構成や内容の理解に課題が残るので、接続詞や言い換えに注意して読解ができるように指導する。